

ステークホルダーとのコミュニケーションを通じての 価値創造

azbilグループは、様々なステークホルダーの皆様との対話、建設的なコミュニケーションを大切に、そこから得られたご意見を経営や事業活動に反映、さらには協働で課題解決に取り組むことで、新たな価値を共創し、持続的な成長につなげていくことを目指しています。地域、国ごとに、課題は様々です。コミュニケーションの深化を通して、こうした多様な課題を的確に捉え、解決策を立案し、持続的成長に向けた価値創造につなげていきます。この観点から、経営層自らステークホルダーの皆様との対話を積極的に進め、より透明性の高い、信頼感のある関係構築に努めています。

この章では、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーション機会、2023年度における活動例をご紹介します。

コーポレートコミュニケーション体制

コーポレートコミュニケーション担当役員の下、社内各部門の連携を図り、ステークホルダーの皆様との対話を促進する体制(コーポレートコミュニケーションタスク)を組んでいます。適時・適切、統合的な発信や新しい機会・ツールの導入等、より良いコミュニケーション活動実現に向けて議論しています。2023年度から「コミュニケーション部」を新設し、グローバルでのコミュニケーション活動の促進、ブランディングを進めています。法令・規則に則った公正で透明性の高い情報開示を適時・適切に行うとともに、財務情報はもとより経営計画やESGなどの非財務情報、製品・サービス情報までを積極的に発信しています。

株主・投資家

適時・適正な情報開示をします。資本市場からの適切な評価獲得、資本市場の要望のフィードバックによる企業価値向上に努めます。また、社会課題やサステナビリティに関する取組みと開示に取り組みます

□ コミュニケーション機会

- ・株主総会、決算説明会、施設見学会、展示会
- ・国内外機関投資家・アナリストとの個別面談
- ・個人投資家向け会社説明会
- ・統合報告書(azbilレポート)、事業報告書(株主の皆様へ)、ESGデータブック、Webサイトでの情報開示

□ 2023年度の活動例

- ・株主総会を会場・オンラインのハイブリッドで開催
- ・経営層を含む国内外機関投資家との面談実施
- ・藤沢テクノセンター施設見学会を実施



第102期定時株主総会もハイブリッドでの開催を継続

お客様

より良い製品・サービスの開発、コンサルティング、品質保証、高付加価値なエンジニアリング・メンテナンスサービスを提供します

□ コミュニケーション機会

- ・営業活動・品質保証活動
- ・安全・安心で価値のある製品・サービスの提供
- ・Webサイトによる情報提供、お問い合わせ窓口
- ・展示会・ウェビナー

□ 2023年度の活動例

- ・IIFES 2024、Industrial Transformation ASIA-PACIFIC、スマートビルディングEXPOほかに出展、DXやAIを活用した先進的な製品・サービスをご紹介



IIFES 2024では製造業の多様な課題を解決する製品・サービスを紹介

お取引先様・サプライヤー

公正な取引機会の確保やより良いパートナーシップ構築、SDGsを共通目標とした価値共有、社会的責任を遂行します

□ コミュニケーション機会

- ・CSR調達ガイドラインの説明会
- ・ESG視点でのお取引先様自己評価アンケート・フィードバック
- ・お取引先様訪問を含むSDGs目標への取組み

□ 2023年度の活動例

- ・お取引先様の人権侵害リスク評価実施
- ・CO₂排出量削減のための取組み実施
- ・一部お取引先様に対して訪問、ESG視点でのヒアリング(2023年度実績62社)、成功事例の水平展開等を実施



サプライチェーンに関するSDGsの枠組みと1年ごとの活動実績をまとめた活動報告書を毎年発行

azbilグループは、ステークホルダーの皆様との建設的な対話、双方向のコミュニケーションを持続的成長の基盤と捉え、幅広いステークホルダーとの関係性の深化に努めています。

社員

一人ひとりが生き生きとして働き、能力を最大限に発揮できるような「健幸経営」を実現します

□ コミュニケーション機会

- ・経営層と azbilグループ社員との直接対談
- ・経営層と労働組合との定期的な対話（経営協議会等）
- ・社員満足度調査の実施
- ・会社ポータルサイトを通じたコミュニケーション
- ・内部通報をはじめ公私問わずあらゆることを相談できる窓口の設置

□ 2023年度の活動例

- ・社内ブログ等の導入。飲み物をペアで買うと無料になる自動販売機を設置することで、対話の場を創出
- ・現地法人の受講生が一堂に会する学びの実施
- ・カーボンニュートラル(CN)実現に向けた社員活動※



社員参加のCNプログラム受賞者による環境先進国視察の様子

地域社会・国際社会

地域社会・国際社会からのニーズや期待に応える積極的なコミュニケーションを行い、社会貢献活動へ参加します。また、各種宣言、イニシアチブ、活動への参画を通して責任ある企業活動を実践します

□ コミュニケーション機会

- ・季節行事（納涼祭等）や社会貢献プログラム（教育支援等）
- ・社員のボランティア活動（地域清掃活動、azbilみつばち倶楽部）
- ・国際イニシアチブへの参加、ウェビナー
- ・自然環境保全活動（地域の特色を活かした国内外の関係組織との連携）

□ 2023年度の活動例

- ・湘南ユナイテッドBC・藤沢市、アズビル山武財団と子ども向け車いすバスケットボールイベントを共催
- ・国連グローバル・コンパクト主催会議にて山本社長がSDGs 目標達成に向けた意見を表明
- ・2025年大阪・関西万博のテーマウィーク協賛を決定



「青少年の健全な育成」を掲げているアズビル山武財団と藤沢市が連携して、市内の子どもたちに車いすバスケットボール体験の場を提供

※ 事業を通じた地球環境への貢献を推進するにあたり、社員がCNについて学び、個人はもちろんです。azbilグループとして未来のためにできることを宣言・提案していくことを目指した独自のプログラム。azbil * CN Challenge * 2023 (通称:カボチャレ)

地域社会との対話・貢献についてはアズビル山武財団と連携しています

参画・賛同する主な宣言・イニシアチブ、社外からの評価

- 「気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD)」 賛同表明
- 「国連グローバル・コンパクト」 署名
- 気候変動イニシアチブ、日本気候リーダーズ・パートナーシップへの賛同
- 年金積立金管理運用独立行政法人 (GPIF) 選定インデックス
FTSE Blossom Japan Index、MSCI ジャパン ESG セレクト・リーダーズ 指数、
FTSE Blossom Japan Sector Relative Index、MSCI 日本株女性活躍指数 (WIN)、
S&P/JPX カーボン・エフィシエント 指数、Morningstar Japan ex-REIT Gender Diversity Tilt Index
- CDP Climate Change A リスト 評価、CDP Water Security A- 評価、
サプライヤー・エンゲージメント・リーダー
- 女性活躍推進法に基づく優良企業認定マーク「えるぼし」 最高位認定、
「プラチナくるみん認定」 取得、健康経営優良法人 2024 (ホワイト500) 認定
- 第5回 ESG ファイナンス・アワード・ジャパン「環境サステナブル企業」 選定
- FTSE 4Good Japan Index、JPX 日経インデックス 400



一般財団法人 アズビル山武財団



アズビル山武財団は、未来のある子どもたちが安心して学べる仕組みや教育機会の提供、科学技術に関する研究助成・新技術の開発支援を目的として、アズビル創業110周年にあたる2016年に設立しました。

これまで財団が所在する神奈川県藤沢市を中心とした地元密着型で学生の就学支援等を実施し、人々の喜びや達成感に満ちた幸せの創造につなげてきました。

2024年度は地域社会の発展と人材育成を目的として、京都府京丹波町と包括連携協定を締結、またSDGsの目標達成のために活動するWWF ジャパン (公益財団法人世界自然保護基金ジャパン) 等の公益法人へ支援を開始するなど活動を広げています。

WEB 一般財団法人アズビル山武財団
<https://azbilyamatake.or.jp>